

超音波内視鏡に接続する超音波観測装置の納入台数 1,000 台を突破

[2008.04.18] 超音波観測装置

オリンパスメディカルシステムズ株式会社との協業ビジネスで超音波内視鏡に接続する超音波観測装置の納入台数 1,000 台を突破

世界初の超音波診断装置を開発した事で知られるアロカ株式会社（本社所在地：東京都三鷹市牟礼 6-22-1 代表取締役社長：吉川義博）は、オリンパスメディカルシステムズ株式会社との協業ビジネスである超音波内視鏡ビジネスにおいて、自社超音波診断装置の世界累計販売台数が 3 月末現在 1,000 台を突破しました。

内視鏡システムと超音波診断装置を組み合わせた本システムは、悪性新生物を初めとする消化器系疾患を中心とした標準的な診断機器の一つとして広く認知され、世界各国において広く普及しています。現在、主力製品であるプロサウンドα10 およびプロサウンドα5 の 2 機種において、使用用途の異なる 2 種類のオリンパスメディカルシステムズ社製超音波内視鏡の接続対応を行い、幅広い診断・治療に貢献しています。

今後さらなる適用用途の拡大などにより市場拡大が期待されています。

システムの特徴

従来の光学内視鏡では組織の表面の観察が可能ですが、表面からは見えない組織内部の病変の浸潤については分かりません。従来の内視鏡光学部と超音波診断装置のセンサーである超音波振動子を 1 本のスコープの先端に組み込むことによって、組織の表面の観察に加えて、胃がん等における浸潤状況を把握する深達度診断やリンパ節転移の有無などの観察が可能になりました。

さらに、これらの診断情報を手がかりに、近年広く行われるようになった超音波画像下で組織を吸引して病理組織診断を行う超音波内視鏡下穿刺術への移行が可能で、患者様と医療現場双方にメリットがあります。

また、アロカの超音波診断装置「プロサウンドシリーズ」との組み合わせにより、診断に必要な微小病変の描出や微小血管などの描出を可能にする血流表示モードにも対応しており、より精度の高い診断が可能になっています。

<アロカ株式会社概要>

アロカ株式会社は超音波診断装置のパイオニアメーカーです。アロカの超音波診断装置は日本を含む世界各国で活躍しています。2006 年 12 月に世界で初めて超音波診断装置の累計生産台数 20 万台を達成しました。

「生命の尊さ」「一人でも多くの命を救いたい。」をモットーに患者さんと医療従事者の為に、アロカの創造と技術革新は、常に進化し続け、医療と人にやさしい関係をテーマに豊かな社会の実現に貢献しています。